

ばんけい

教育ほんといっしょ
かわら版こみち
教育の小径 No.213
2026 July
7月号

(一財)総合初等教育研究所参与

北 俊夫先生



今月のことば

ふとうふくつ
不撓不屈

志が固く、どのような困難に遭遇してもひるんだりくじけたりしないことをいいます。不撓と不屈には同じような意味があります。

夏休みの課題をどうするか

- 夏休みの課題に対する学校としての方針を明確にし、その趣旨を子どもたちや保護者に事前に伝えます。
- 子どもたちには、夏休みに入るまえに課題意識をもたせ、学習計画を立てさせます。子ども一人一人への丁寧な事前指導がポイントです。

夏休みになぜ課題を出すのか

間もなく子どもたちが楽しみにしている夏休みがやってきます。夏休みは欧米の学校で慣行として行われていた制度が外国人教師によってもち込まれたものです。9月に学年が始まる国や地域では、7～8月は学年末になりますから、長期の休みがスムーズに実施されていました。

日本では明治18年(1885年)まで、学年の始まりが9月でした。次の年から国や県の会計年度に合わせて4月に変更されました。4月に新年度が始まってから3か月半が過ぎ、子どもたちが学校生活によく慣れてきたところに長い休みに入ることとなります。子どもたちの生活が乱れがちになることは十分に予想されました。

そこで、子どもたちの意識を学校や学習につなげ止めておこうと思いついたのが、夏休み中に登校日を設けたり課題を与えたりすることでした。これがいまま学校が課題をだしている背景です。せっかくの長期の休みにもかかわらず、子どもたちは宿題をやらなければならなくなりました。

かつての課題は、教師が市販の夏休み用の教材を与えるなど、毎日規則正しく取り組ませるためのものでした。

子どもたちは午前中の涼しいうちに指定された教材の問題に取り組んでいました。夏休みが終わるころになると、やり残した課題をまとめて急いでやり終える子どももいました。

そのうち、自らが研究テーマを設定して取り組む「自由研究」が課題として出されるようになりました。これには、学習に主体的に取り組む態度を育てること、自然現象や社会課題、伝統的な文化などに触れること、研究の方法など科学的な学び方を身につけることなどにねらいがあります。

最近では、子どもの課題意識や主体性を尊重するとの考えから、夏休みの課題をいっさい出さない学校もできました。これに対して保護者のあいだには「宿題がないと、毎日遊んでばかりいるので出してほしい」とか「子どもの好きなことに取り組ませる時間ができるのでとてもよい」など、賛否両面の受けとめがあるようです。

ポイントは事前の指導

子ども任せでは充実した夏休みを過ごすことはできません。夏休みのまえになると、子どもたちが安全な生活を送れるように、「夏休みの過ごし方」など生徒指導が行われます。これと同じように、夏休みに取り組む課題につ

いても、事前に子ども一人一人に応じたきめの細かい指導が望まれます。

特に重視したい事前指導のポイントは次の3点です。

まず、夏休みの意義について理解させることです。日ごろの学校での生活とちがい、自ら課題意識をしっかりとつことにより、充実した夏休みになること、夏休みは自分の思いで自由に使える時間であることを指導します。また、今年の夏休みにはどのようなことに取り組みたいか。一人一人に「私の夏休みの過ごし方」をじっくり考えさせます。友だちの過ごし方をヒントにさせる方法もあります。

次に、学習計画を立てさせます。どんなことをどのように取り組むのか。内容と方法の面からラフな計画を立てさせます。あまり細かくすると、生活が窮屈になるだけでなく、計画倒れになるおそれがあります。計画は実施しながら修正してもよいことを夏休みに入るまえに丁寧に指導します。

さらに、保護者会などで保護者の理解と協力を得るようにします。保護者の意向も聞き取ります。夏休みは子どもたちを家庭に返す期間といわれています。保護者が夏休みの課題に関わることがありますから、保護者に学校の考え方や教師の願い、子どもたちへの関わり方を伝えておきます。

今月の記念日

7月26日

幽霊の日

1825年のこの日、鶴屋南北(4代目)の代表作である歌舞伎狂言「東海道四谷怪談」が江戸の中村座で初めて上演されました。

指導とはいかなる営みか

ここでは「指導観」について考えます。学校教育に関連して、例えば、学習指導要領、指導要録、指導主事、指導教諭、指導書、学校指導課など、さまざまな場面で、「指導」の用語が使用されています。さらに、指導内容に関連して、進路指導、生徒指導（生活指導）、教科指導などの用語が使用されます。指導の類語に、助言、援助、支援、指示、管理、統制などがあり、それぞれ微妙に違いがあり、用途によって使い分けられています。

学校教育における指導は主として教師が行うものです。教師と子どもたちのあいだで、教師が子どもたちに対して行う行為や働きかけです。指導の対象者は子どもたちです。

指導という行為を大きく捉えると、教師の意図や思いや願いなどが先行して行われるものと、子どもの状況や課題などに応じて行われるものがあります。前者は教師側からのトップダウンの視点です。後者は子どもの側からのボトムアップで、援助とか支援などということもあります。

「指導か支援か」とか「指導と助言はどう違うのか」といった二項対立で捉える傾向があります。両者の明確な線引きは困難です。ひとつの捉え方として、教師の子どもたちへのあらゆる関わり方や働きかけを「指導」としてひと括りにし、指導の形態として、援助や助言、支援、指示、さらに観察や共感などを含めることが考えられます。

子どもの自発性や自由度を尊重しすぎると、「指導すべきことはきちんと指導してほしい」などと、教師の主体性が問われます。教師の指導性と子どもの主体性は対極に位置しています。



減少する年間授業時数

各学校が設定する年間授業時数がさらに減少したことが、文部科学省が毎年実施している「教育課程の編成・実施状況調査」で明らかになりました。

学校教育法施行規則の「別表」に示されている年間標準授業時数は、小学校第4～6学年が1015時間です。調査では、年間1086時間以上を「標準授業時数を大幅に上回る時数」としています。

令和7年度において計画段階の年間授業時数は第5学年を例にみると、標準授業時数を大幅に上回った時数を設定していたのは、わずか1.8%でした。令和6年度は17.7%、令和4年度は

37.1%でしたから、年度ごとに大きく減少してきたことがわかります。この傾向は、実際に実施した授業時数の推移においても同様でした。

学校の設定する授業時数が増加していた状況に対して、文科省は学校の働き方改革の趣旨から、平成31年の通知で「標準時数を大きく上回った授業時数を実施することは教師の負担増加に直結する」として、時数の見直しを求めてきました。

各学校が年間授業時数を増加した背景には、平成15年12月に学習指導要領の一部改正に伴って発出された通知があります。「各教科等の年間授業時数の標準を上回る適切な指導時間を確保する」と示されたことが影響したものと考えられます。これを受けて、各学校は授業日や授業時間を増やすことに苦心してきました。



学習指導要領は全面改訂か

現在、学習指導要領の改訂作業が進行しています。わが国では、ほぼ10年ごとに「全面改訂(改定)」が行われてきました。改訂とは問題点や欠点を見なおし、内容を改めることです。「一部改正」とは意味が違います。

学習指導要領の文面(内容)は全面的に改訂されているでしょうか。「新旧の対象表」を作成すると、各教科の多くの教育内容は従前どおりであることに気づきます。表現の仕方に違いがあっても、趣旨や内容は大きく変わっていない部分が多くあります。これまでの多くが引き継がれていますから全面改訂でないことは一目瞭然です。

もし内容のすべてが全面的に改められたらどうなるでしょうか。学校は大混

乱になることは目に見えて明らかです。一番の迷惑を被るのは子どもたちです。先生方も指導の違いや変化に戸惑うことでしょう。

教育行政にとって重要な視点のひとつは「継続性」です。無理なくスムーズに移行していくことが重要になります。船にたとえると、キャッチャーボートではなく、大型のタンカーをイメージするとよいでしょう。学習指導要領が変わると完全実施に備えて「移行措置期間」が設けられます。子どもたちの学びに抜け落ちや重複がないように移行し、学校現場に混乱をもたらないようにするための配慮です。

にもかかわらず、「全面改訂」と流布されるのは、改訂の内容にインパクトをもたせ、関心を高めることに狙いがあるものと考えられます。改訂作業は今次学習指導要領だけでなく、先の先を見据えて円滑に移行していくことが重要になります。(1)

INFORMATION

夏にチャレンジ510

おたすけAI
でばりヒントつき!

協力 スタディポケット

●わからない問題は、AIからヒントをもらってチャレンジ!

算数の全問対応

●負担の少ない32ページ!



「教育の小径」のすべてのバックナンバーを文溪堂ホームページからお読みいただけます。

お知り合いの先生にもお勧めください。



ぶんけい 教育の小径 検索

編集後記

夏休みの宿題は、最終日にまとめて必死でやっていましたが、夏の自由研究・自由工作は大好きで、毎年「今年は何をしよう?」とわくわくしていました。アリの観察したり、絵本を作ってみたり、文章を書いてみたり…。夢中で過ごしたあの夏休みの日々が、今の仕事につながっているのかもしれない。(M記)



企画・編集：ぶんけい教育研究所
発行：株式会社文溪堂
発行日：2026年7月1日